



学校だより

ひびき

令和2年5月11日

5月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

ピンチをチャンスに

学校長 大塩 啓介

初夏の過ごしやすい季節となりましたが、あいにくの新型コロナウイルスの感染防止のために、世の中の動きが止まってしまいました。感染が拡大の一途をたどり、著名人の方もお亡くなりになっています。

こうした中、学校の業務も児童が登校できないため大部分がストップ。職員も在宅勤務で教材研究や資料の作成などを余儀なくされています。児童が登校できないため、職員が休校中の学習課題等を考え作成しています。しかし、学年が始まったばかりで学級での学習活動も全く行えておらず、現在の混沌とした先の見通しが持てない中、長期に及んでいる休業期間に、どのような活動をご家庭で進めていけばよいのか試行錯誤しているところです。この度、接触を極力避けるために、学習活動のための教材・プリントを送らせていただきました。

今後、考えられるのが、児童も楽しみにしている諸行事の延期または中止です。中には既に延期が決まっているものもありますが、更なる長期化と感染拡大の状態によっては、見直しを迫られることとなります。

学校の会議も、世の中の流れと同じく中止しています。校内の会議、対外的な会議など、様々な会議や集まりが中止になっています。しかし、このような状況にあっても、情報共有や決定していかなければいけないことなどがたくさんあります。現在、LINE Works など、ICTを活用して進めているところです。顔が見えず、肉声も聞こえない状態ですが、これまで当たり前と思っていたこと、こうしなければいけないと考えていた業務の在り方を見直すチャンスになっています。

同様に児童の学習です。WEB上に様々な学習動画が配信されています。TVKでは、横浜市教育委員会が作成した指導主事や先生による短い授業が公開され、学校に行くことができない児童の学習を補う手立てとして行われています。ご家庭によっては、タブレットを用いた通信教育を行っているとも聞いています。こうした取り組みは、今までの既成概念を打ち破っていく大きなチャンスになるかもしれません。

今は、一人一人が感染拡大防止という大きな課題に対し、全力を尽くすことが大切です。そうした中で、ピンチをチャンスにする芽をたくさん見つけていきたいと思っています。もしかしたら、今取り組んでいることが、これからの教育改革のうねりのきっかけになっていくかもしれません。